

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-55422

(43)公開日 平成11年(1999) 2月26日

(51)Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

F I

H 0 4 M 11/00

3 0 2

H 0 4 M 11/00

3 0 2

H 0 4 Q 7/38

1/00

N

H 0 4 L 12/46

1/27

12/28

H 0 4 B 7/26

1 0 9 M

12/02

H 0 4 L 11/00

3 1 0 C

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 6 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号

特願平9-243290

(22)出願日

平成 9 年(1997) 8 月 6 日

(71)出願人 597019713

峯尾 淳一

東京都港区高輪 2 丁目 1 番15号 伊皿子ア

パートメント609号

(72)発明者 峯尾 淳一

東京都港区高輪 2 丁目 1 番15号伊皿子アパ

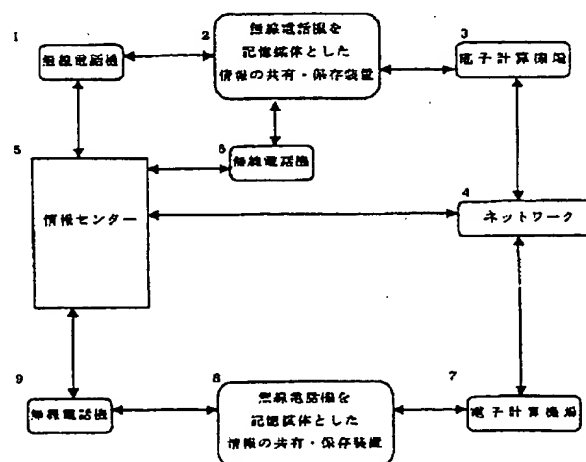
ートメント609号

(54)【発明の名称】 無線電話機を記憶媒体とした情報共有・保存・提供システム

(57)【要約】

【課題】 電話番号情報・名称付き情報等の情報を用途に応じて臨機応変に変更することができ、記憶容量に制限のない無線電話機を記憶媒体とした情報共有・保存・提供システムを提供する。

【解決手段】 無線電話機1と無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置2と電子計算機端末3を設け、ネットワーク4を経由し、他の電子計算機端末7や情報センター5と情報を共有・保存・提供することを特徴とする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】無線電話機と電子計算機端末における情報の共有・保存装置を用いた情報の共有・保存・提供システム。

【請求項2】ネットワークを利用し無線電話機と電子計算機端末における情報を随時更新する情報の共有・保存・提供システム。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】本発明は無線電話機と電子計算機端末における情報の共有及び保存を主たる目的とする装置及びその動作を制御する無線電話機とそれらを結ぶネットワークから構成される。

【0002】従来の無線電話機システムにおいては、利用者が登録した電話番号情報・名称付き情報等を蓄積し参照していた。利用者は個々の無線電話機に対し、電話番号情報・名称付き情報等の情報を入力する必要があり、その情報を外部に保存することができず、情報を蓄積できる容量も限られていた。また、無線電話機内における蓄積情報を用途に応じて臨機応変に変更することができなかった。登録していない情報を参照することもできなかった。さらに、登録した情報を自動更新することもできなかった。

【0003】そのため、無線電話機に保存している情報の更新や編集、及び共有が困難であり、無線電話機に保存している情報を外部に保存することができなかった。また、記憶装置の蓄積できる容量に制限があった。

【0004】本発明は、無線電話機に蓄積される情報を外部にも蓄積することによって、多人数で情報を共有、若しくは分散することが可能である。ネットワークを利用することも可能であるため、ネットワークを経由し、情報を共有・提供することはもちろん、ネットワーク上にある情報センターから要望に応じて情報を得ることが可能である。また、無線電話機がその通信機能を用いて、情報センターに直接接続し、随時または要望に応じて無線電話機に蓄積されている情報データを更新することが可能である。さらに、情報を蓄積する容量に制限のない記憶媒体を提供することができる。

【0005】以下、本発明の各構成について説明する。

(1) 無線電話機とは、携帯電話、PHS(Personal Handy-Phone System)、自動車電話についての総称である。

(2) 無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・交換装置とは、無線電話機の内部記憶装置に記憶された情報を電子計算機端末に外部記憶させるためのインタフェース装置である。また、電子計算機端末に外部記憶してある情報を無線電話機の内部記憶装置に記憶させるための装置である。

(3) 電子計算機端末とは、無線電話機の内部記憶装置に対して外部記憶装置の役割を果たすものである。

(4) ネットワークとは、インターネット、LAN(Local Area Network)、WAN(Wide Area Network)、GAN(Global Area Network)の総称である。

(5) 情報センターとは、無線電話機に記憶すべき情報を保存し、要求に応じて特定多数へその情報を提供する機能を有した組織または設備である。

(6) 個人データとは、無線電話機の利用者のプライベートな情報蓄積部分であるため、参照・複製を行う場合には、個人データの持ち主の許可を必要とする記憶領域のことである。

(7) 共有データとは、利用者の要望に応じて、組み合わせたり、入れ替えたりすることができる記憶領域のことである。

【0006】まず、情報の共有・保存・提供システムを図面について説明すると以下のようになる。

(1) 図1に示すように、無線電話機1は無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置2を用いて電子計算機端末3と情報を共有・保存・提供する。

(2) 図2に示すように、電子計算機端末3はネットワーク4に接続することが可能であるため、ネットワーク4を通じてネットワーク上にある情報センター5に接続し、必要な情報を取り出し利用することができる。情報センター5においては、レストラン情報、図書館情報、空港情報、ホテル情報、観光地情報等、様々な分野にわたる電話番号情報・名称付き情報を提供し、無線電話機1と電子計算機端末3の双方において情報を取り出し利用できるサービスを提供する。

(3) 図3に示すように、無線電話機1はその通信機能を用いることで、情報センター5に自動接続し、情報センター5において配布される情報の更新を行うことができる。

(4) 図4に示すように、無線電話機1とは異なる別の無線電話機6は、無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置2を用いることで、電子計算機端末3に保存されている無線電話機1の情報を共有することができる。

(5) 図5に示すように、電子計算機端末3は、ネットワーク4に接続することができるため、ネットワーク4を通じて、他の電子計算機端末7と通信し情報を交換することができる。そのため、無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置2を用いて、電子計算機端末3に保存されている無線電話機1の情報は、電子計算機端末3と電子計算機端末7との間でネットワークを経由して情報を交換することにより、無線電話機9は無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置8を用いて通信によって電子計算機端末7に蓄積された無線電話機1の情報を共有・分散することができる。

【0007】さらに、記憶装置を図において説明すると以下のようになる。図6に示すように、情報を保存する記憶装置には、個人データ10と共有データ11とが

る。個人データ10の情報は、共有の可否が無線電話機にて決定できるものであり、主に個人のためだけに使われるものであるため、電子計算機端末が参照・複製することも無線電話機1の利用者の許可による。共有データ11は、共有するための情報であるため、電子計算機端末が参照・複製することができる。個人データと共有データは、電子計算機端末3と無線電話機1に蓄積されている情報である。共有データの情報は、時間帯などによって、組み替えたり、組み合わせたりすることが可能である。

【0008】本発明を用いた実施例を説明すると以下のようになる。

(1) 利用者は、無線電話機1に保存した情報のバックアップをとるために、無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置2を用いて、電子計算機端末3に保存する。このようにしておくと、利用者が誤って、無線電話機に登録・蓄積しておいた情報を消去してしまった時、簡単に情報を保存し直すことができる。また、機械の故障で、無線電話機に保存されていたデータを失ってしまった場合にも、簡単に情報を保存し直すことができる。

(2) 利用者は、無線電話機1に保存した情報もしくは保存したい情報があるとき、電子計算機端末3を用いて、情報を編集・保存することが可能である。

(3) また、利用者は、電子計算機端末3を用いて、ネットワーク4を経由して情報センター5に接続することにより、レストラン情報や遊園地情報など好みの情報を取り出すことができる。利用者が必要と考えるこれらの情報を電子計算機端末3で編集をし、無線電話機1にも同じ情報を保存しておく、無線電話機内と電子計算機端末内に蓄積されている情報は、随時更新される。そのため、見知らぬ土地へ行き食事をするところを探さなくてはならないとき、無線電話機内の情報を参照することにより、利用者の要望に応じた店を探すことができる。

(4) 利用者は、用途・時間に応じて、必要な情報をだけを取り出すことができる。月曜から金曜までは仕事関係の情報とレストラン情報を、週末はレジャー情報を、オフタイムには友人の情報を、といった具合に日時によって、取り出す情報を変えることが可能である。

(5) 無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置2を用いることにより、無線電話機1に保存されている情報と同じ情報を電子計算機端末3から取り出し、別の無線電話機6に保存することができるため、会社内などにおいて複数の利用者間で編集・保存された情報を共有することができる。

(6) また、ネットワーク4を経由することにより、電子計算機端末間での情報のやりとりが可能であるため、無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置2と

は違う別の装置8を使用して、無線電話機9に同じ情報を保存することも可能である。

【0009】以上で説明したように、本発明によれば、無線電話機機能において、無線電話機内に蓄積されていた情報を外部に保存することができる。そして、その情報を編集することができる。また、計算機端末を用いネットワークを経由し、情報センターに接続することにより、自らが作成した情報以外の情報を更新しながら蓄積することができる。移動電話機内に保存されている情報を外部に保存することにより、電子計算機端末によってその情報を編集するだけでなく、多人数で共有することが可能になる。また、本発明は無線電話機に一時保存された情報のバックアップ機能を提供する。さらに、電子計算機端末を用いるためネットワークを経由し情報センターに接続する、もしくは無線電話機から直接情報センターに接続することにより、自らが入力した情報以外の情報を保存し参照することができる。そして、記憶装置においては、外部に蓄積された共有データ11を組み合わせて入れ替えたりすることにより、容量の制限をなくすことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】有線による接続方式を示した図である。

【図2】ネットワークを経由した接続方式を示した図である。

【図3】無線による接続・情報の更新方式を示した図である。

【図4】有線による情報の共有・分散方式を示した図である。

【図5】有線によるネットワークを経由した情報の共有・分散方式を示した図である。

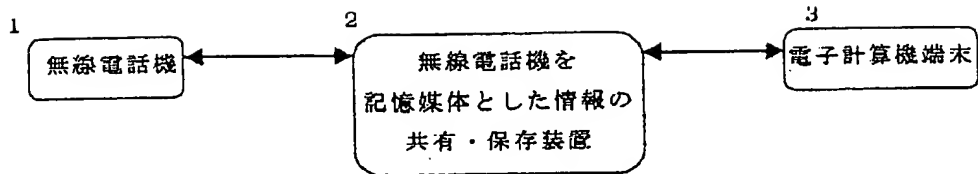
【図6】記憶装置の構成を示した図である。

【図7】無線・有線による情報の共有・分散・提供システムを示した全体図である。

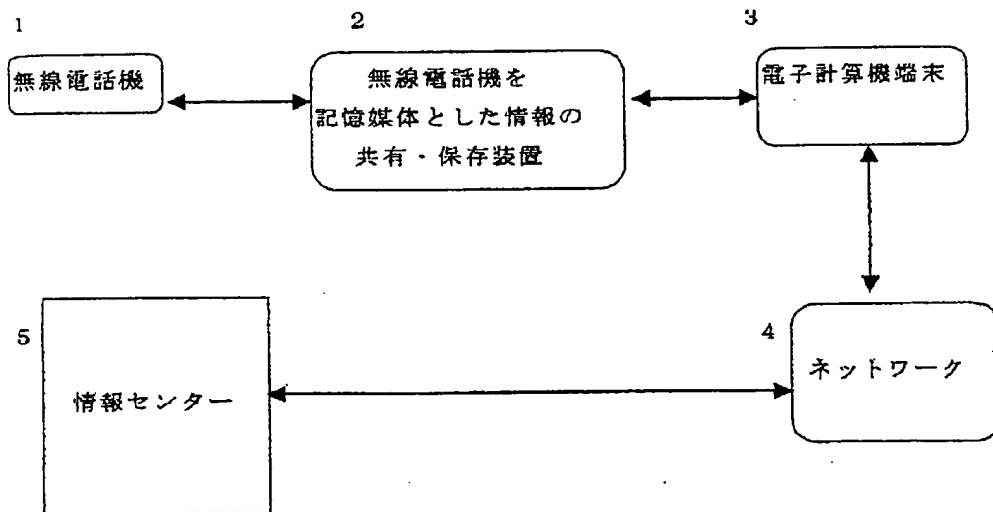
【符号の説明】

- 1 無線電話機
- 2 無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置
- 3 電子計算機端末
- 4 ネットワーク (インターネット/LAN)
- 5 情報センター
- 6 無線電話機
- 7 電子計算機端末
- 8 無線電話機を記憶媒体とした情報の共有・保存装置
- 9 無線電話機
- 10 個人データ
- 11 共有データ
- 12 共有データ
- 13 共有データ

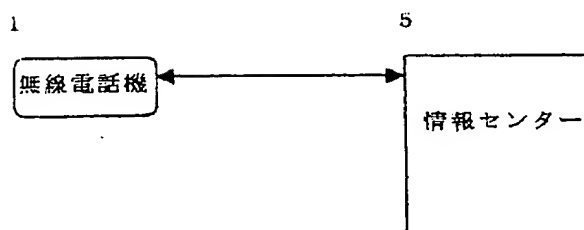
【図1】



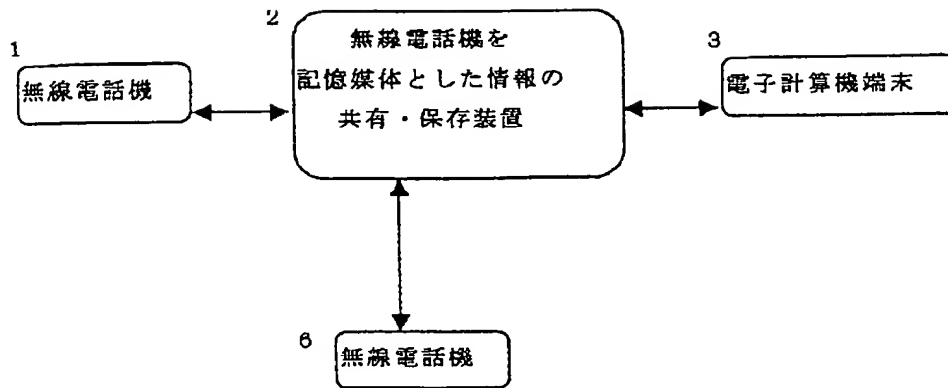
【図2】



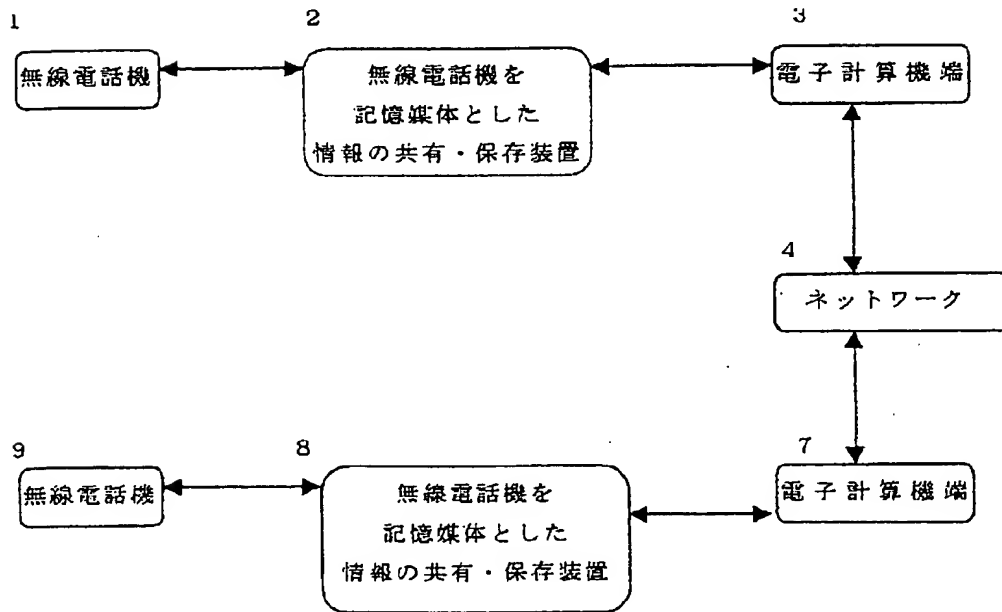
【図3】



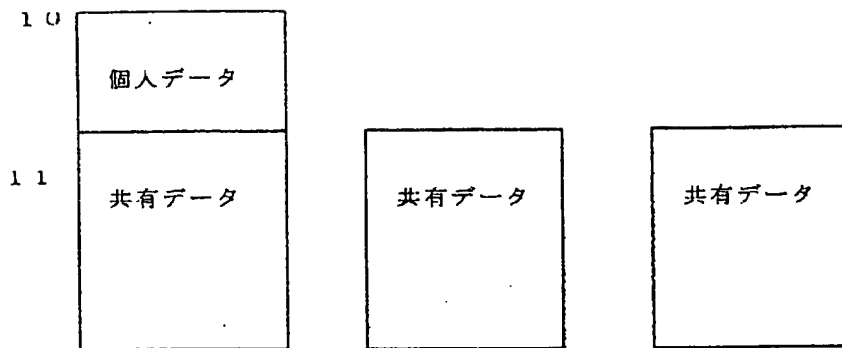
【図4】



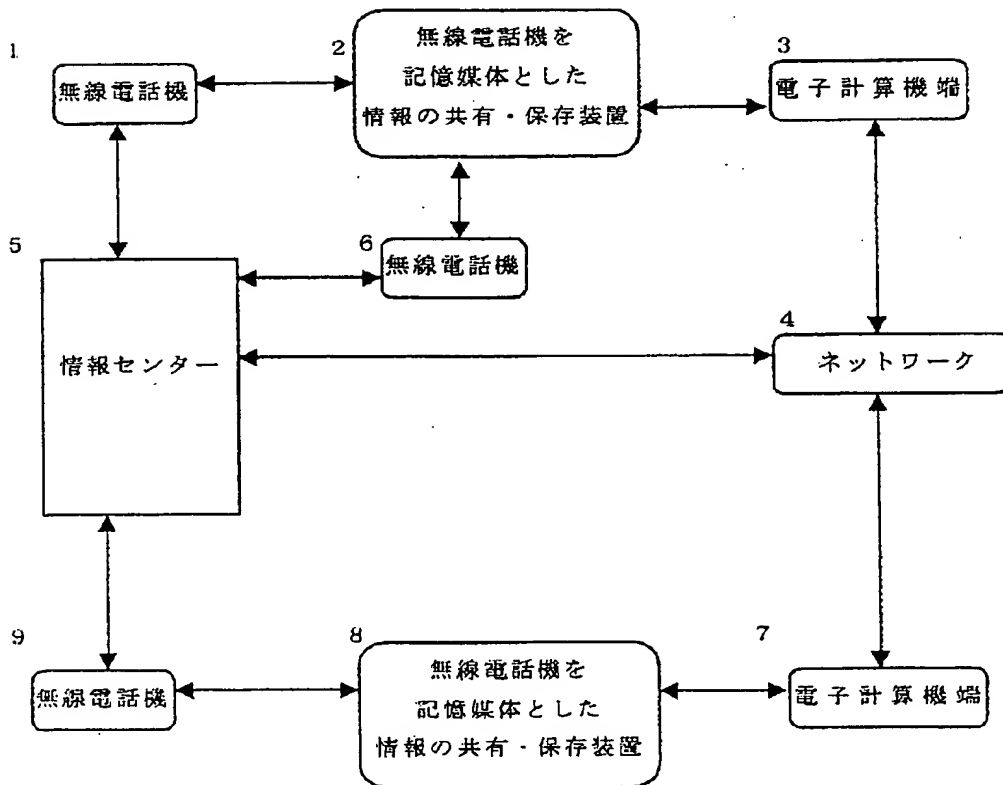
【図5】



【図6】



【図7】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.<sup>6</sup>

H04L 29/10

H04M 1/00

1/27

識別記号

FI

H04L 11/02

13/00

Z

309C